



### 長い間埋もれていた 62 番札所 (太田地区・網代中都越え)



風化した堂内部。御大師さんと思える仏像もある



中都 63 番札所からの遍路道の雑木刈りを実施した



## 改めておもてなしの意味を考える

### ■山野に埋没する遍路道

時代が進み周辺道路も整備されると不便な旧道は利用されなくなり、数年もすれば山に取り戻されてしまうのは、我が町(島)でも同じ現象だろう。まして四国の舞台となる遍路道も、今はお接待の無いところはパスされ、お接待のある場所に自動車で近づけなければ踏み固められることもない。とまあ、このくらいの感じであろう。七年後には東京オリンピック開催が決まっているが、誘致の決め球が「おもてなし」。上品で、それでいてなやらの人の物欲をそこはかとなく刺激する言葉である。いまや「おもてなし」が流行語となっていました。

お接待はおもてなしか？  
 お四国参りに付きもの「お接待」は「おもてなし」なのかなどいうかは筆者にはよくわからないが、信仰に生きる人々の修行の傍らで、周囲の人々が様々な

かたちの接待をすることで善根を積む。そのことで自らの修養も果たせるという仕組みは、とてもよく考えられた徳育システムではないかと思ったりする。あえて道徳教育などと教室で教えずとも、見返りを求めぬ自主的な奉仕をすることで精神修養が果たせ、そのことが結果的には求めていなかったはずの見返りも、神仏からきちんと受け取れる。世界の宗教に喜捨という行為が名を変え姿を変えて存在するのは故無きではない。

### ■外からの刺激で活性化

実は最近、長年所在不明、というか場所が定かでない弓削島四国六二番札所とある事情から見つけた。長いあいだ人跡絶えていたわけだが、旧弓削町時代に札所をあらわす石柱は立てられていたので人は訪れていたことになる。実はこの札所には、筆者も幼少の頃を含め存在さえ知らず、ましてや参

### ■おもてなしの意味を考える

思えばこの弓削通信でも島四国のことは何度か話題にした。「おもてなし」は大事かもしれないが、本来の歩くという行為を存分に楽しめる「島四国歩き遍路」も、春の一日、なかなか

外からの刺激でお節介心に火が付く。なにやら最近話題のS T A P 細胞のようである。

思えばこの弓削通信でも島四国のことは何度か話題にした。「おもてなし」は大事かもしれないが、本来の歩くという行為を存分に楽しめる「島四国歩き遍路」も、春の一日、なかなか

## きんぐち四五

### 青木喜代子

節分の夜、豆まきを終えた夫が豆を数えてくれ、その山を見てため息。

子供の頃、母がほろろくで煎る豆は香ばしい、いい香りがした。夕食後父は神棚に供えてある豆の入った一升ますをおろし、子供達は玄関、裏口、縁のガラス戸を開ける。父が大きな声で「鬼は外！福は内！」と叫ぶ。そしてコタツを囲んでまわった。それぞれ年の数だけの豆を取り分ける。「年の数だけ！」と言われ、十個足らずの豆でがまんした覚えがある。

一夜明けると食べ放題となるが、少し湿気て香ばしさがなくなつた豆には、子供も手を伸ばさない。次の日も次の日も、学校から帰るとコタツの上の一升ますはそのままあった。とうとう母はひとりで皮をむきながら食べていた。

### 還暦の豆



さて今年は何年か。この辺りでは厄年の者は年の数だけ豆を半紙につつま、近くの四ツ辻まで行き、後ろ向きに投げ、振り返らず無言で帰るという習わしがある。私も夫がつつんでくれた豆をにぎりしめて四ツ辻へ。誰も見ていないのを確認して投げた。家まで二百メートルもあるか・・・誰かが後ろからヒタヒタとついてくる気がする。少しこわくて振りむけない。こんな経験どなたにもおありだろうか。やっとの想いで家の中へ。もしどこかでこの一部始終を鬼が見ていたら、腹をかかえて大笑いだろう。そしてこのこわがりオバサンにワルサは止めようぜ！と思ってくれたらうれしい。何卒よろしくお願いいたします。

よろしからうとは思うのだ。そういう風潮が蔓延すれば、また埋もれた札所、繁った山道も、いろんな人々のおせつかいで復活するかもしれない。それはつまり形を変えた「おもてなし」ではないかと思ったりする。

(平山和昭)

### ★出よう会

毎月第2、第3火曜日午後1時から3時頃まで。  
 ・活動趣旨：家に籠もらない為の地区のお年寄り達の交流会。  
 ・2月は11日と18日  
 ・3月は11日(やよみ亭) 18日(土生集会所)  
 お気軽にご参加下さい。

### 【映画研究会】

2月15日(土)

午後7時~無料

### 「バベットの晩餐会」

19世紀後半のデンマークを舞台に、質素な生活を送っているプロテスタントの村人たちとカトリックの国フランスからやってきたひとりの女性との出会いと当惑、そしてある晩餐会の一晩を描く。



監督：ガブリエル・アクセル  
 主演：ステファヌ・オードラン ほか。

### カミンちゃんとかみじい

●かみじい、先月から新しいお話はじまったね  
 ●カミンちゃん、全4回、島四国の話もでてくるよ。  
 ●りんさんって誰だろう？ ●楽しみなね~

### 議 員 活 動 録

(14) 議会議員 平山和昭

## 垣根は高くない。実行しよう!

地区	人口と 高齢化率	2014年 米2013年 12月現在	2040年	
			自然推移	毎年2組の移住あり(注)
弓削 地区	人口 高齢化率	3,339人 38%	1,473人 42%	1,719人 35%
生名 地区	人口 高齢化率	1,724人 43%	649人 63%	847人 49%
岩城 地区	人口 高齢化率	2,174人 32%	2,185人 26%	2,459人 23%
魚島 地区	人口 高齢化率	213人 42%	95人 61%	263人 22%
合 計	人口 高齢化率	7,450人 38%	4,402人 48%	5,288人 32%

注：1組の30代前半夫婦(4才以下の子ども有)と1組の20代前半の夫婦の移住。  
 (データは2005年をベースに推計・中山間地域研究センター版より)



## 統計・推計に見る町の未来

ある統計資料によれば上島町の  
 今後は、現行のままだと四半  
 世紀後には四、四〇〇人ほどに  
 なる。しかし、毎年各地区で2  
 組の家族の移住を確保できれば  
 五、三〇〇人ほど。村レベルで  
 はあるが辛うじて自治体の態は  
 保たれるかもしれない。掲げて  
 いる表は、各地区の推移を一覧  
 にしたものだ。

【変化している若者の心】  
 むろん推計なので状況が変わ  
 れば結果も変化するが、人口の  
 少ないところほど移住者呼び込  
 み効果は大きい。  
 とはいえ毎年一組とはいえど  
 も子育て世帯の移住は、現実  
 に簡単ではない。まず若者が働  
 ける場。地場産業以外の分野、  
 例えばインターネットを使つて

の仕事ができるなど、いろいろ  
 な能力が移住者にも求められる  
 かもしれない。何にもまして自  
 治体が本気で、思いきった環境  
 整備をする必要がある。しかし  
 統計的には目標数値がはつきり  
 している。ハードルも越えられ  
 そう。何より若者の心、価値観  
 は、高度経済成長時代とは変わ  
 っている。こう考えれば、わが  
 町の人口減少の歯止めには何を  
 せねばならぬかがはつきりして  
 いる。

先月号にも書いたが、町の総  
 合長期計画にも移住の促進が謳  
 われている。だが現実にはその  
 ための行政の取り組みが全くと  
 いていいほどなっていない。  
 様々なハコモノ(ハード)には  
 手を付けてきたが、肝心の運用

【ソフト・魅力を感じさせる環  
 境整備】が置き去りにされてき  
 た。

### ■旧魚島村時代のプログラム

実は合併前の平成八年、旧魚  
 島村では「村民大募集」とい  
 う一大プログラムをぶち上げた。  
 「学校は地域の文化の灯台」と、  
 村から学校が消えるのを危惧し  
 た当時の村長が提案、インター  
 ネットのホームページで全国の  
 中学生の居る家族に呼びかけた  
 インターネットを利用した在宅  
 勤務のできる人なら「生徒ひ  
 とりに先生ふたり、英国人の英  
 語指導付きの恵まれた教育環境  
 人情味と大自然あふれる高井神  
 島でご家族と一緒に暮らしません  
 か」と呼びかければ、広い世間  
 には心動く人は必ずいるはず。  
 狙いはあつた。平成九年、神  
 戸市から小四の子供のいる家  
 族三人と、中三のいる家族ふたり  
 が応募。高井神小学校は三年ぶ  
 りに復校した。

その後も村民募集は精力的に  
 続けられ、平成一一年には五世  
 帯二〇人が魚島、高井神島に移  
 住。合併前年の平成一五年には  
 人口三〇〇人のうち一四%が島  
 外出身者。しかもその一ター  
 ン者が村の福祉医療分野を担つて  
 いるといった状況であつた。  
 前掲の推計によれば魚島地区  
 の場合、毎年一組の三〇代前半  
 の夫婦(四才以下の子あり)の  
 移住があれば、四〇年には人口  
 二六三人、高齢化率二二%と試  
 算されている。  
 二〇一四年現在、魚島地区の  
 人口は約二一三人だから他地区  
 とはちがいが増えてゆく。

【引き継がれなかった施策】  
 むろん募集のかけ声だけで移  
 住者が現れるはずもない。前村  
 長、すでに故人に成られたが元  
 村長の時代から魚島地区では、



先の大雨のとき崩れた背後の山も生々しい魚島

公共下水道完備、全戸水洗化、  
 全戸インターネット環境整備、  
 それに移住者への住宅を始め  
 様々な支援、特典、待遇もしつ  
 かり用意されていたからである。  
 だが平成一六年の合併後この  
 村民大募集のプログラムは受け  
 継がれなかった。支所での独自  
 の取り組みも影をひそめ、魚島  
 地区での人口は減少の一途で現  
 在に至っている。

合併後一〇年、どの島でも人  
 口減少は著しい。そうしたなか、  
 完全に歯止めをかけるのは難し  
 いにしろ、過去一定の成果があ  
 ったプログラムにもう一度目を  
 向けてみてはどうだろう。  
 小さなエリアだからやりよい  
 という部分もあるだろうし、地  
 区への行政からの支援がハコモ  
 ノ主体というのにも能がない。  
 この旧魚島村の村民大募集は、  
 磨きをかけ、然るべき資金を投  
 入すれば、さらに魅力的なプロ  
 グラムになると思えてならない。  
 変革は弱いところ、小さなと  
 ころから始まる。我が町の将来  
 にむけ、秀逸な教育環境をキ  
 ーワードに、ぜひ重点的に魚島地  
 区での毎年一組の子宝家族の移  
 住誘致に取り組みたいものだ。

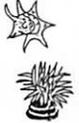


「2」 野原フミ

あすか  
 明日海は自分が島になったつもりで潮の満  
 ち引きを一日のなかで見ていると、地球と海と  
 という大きな見方になってしまします。それを一  
 番感じるのは大潮の干潮のとき、うんと潮が引  
 いていつかは見えない海底がずっと沖まで表  
 れる時間です。

そんな日のまだ薄暗い寒い朝、明日海は長靴  
 をはいて祖父と一緒に出かけました。石がごろ  
 ごろして水たまりがあちこちにあつて滑りそ  
 う。用意してきたヘッドライトで飛び石になつ  
 ているところを照らして注意しながら渡りま  
 す。祖父は石をひっくり返してアワビやナマコ  
 を探します。明日海はとげとげのウニを見つ  
 けても痛そうに手を出せません。

うつつらと朝の明るさになってくると、ぬれ  
 た石や水たまり、ナマコの背もテラつと光つて  
 見つけやすいそうです。明日海もキラリと光る  
 ものを見つけて近寄ってみました。ちょうど手  
 のひらぐらいの薄い貝がらのようです。何だろ  
 う、手にのせても虹色に光つて  
 います。祖父に見せると、



「これは鱗じゃなかるるか。でもそうなら、  
 このくらいはある魚じゃのう」と両手をいっ  
 ぱい広げておどけました。びっくりしましたが  
 ありがたいので、そっとポケットにしましま  
 した。

だいぶ明るくなつてきて砂浜の方を見ると祖  
 母が迎えに来ていました。誰か女の人と一緒に  
 す。明日海があいさつをすると、祖母が「りん  
 さんよ」と紹介してくれました。りんさんも磯  
 の方からもどってきたようでしたが、長い髪  
 のほつりした姿は朝の光にかがやいていま  
 した。一瞬、明日海のポケットを見られた気がし  
 ましたが、その笑顔は冷え切った体をあたたか  
 くつつんでくれました。  
 「また会いましょうね」とりんさんが言いま  
 した。

「ぎつと会えるわ」と、もう一度言つて一人で  
 松原めざして風のように見えなくなりました。  
 (つづく)